

## 森林生態系保全再生手法の検討について

### 1. 背 景

森林生態系保全再生計画の見直し（平成 21 年度）に向けた準備として、調査 3 年目となる今年度から、モニタリング調査や実証実験等の結果のとりまとめ方法、評価のあり方及び今後の方向性等について検討を開始した。

### 2. 目 標（～21 年度）

実証実験の効果及びモニタリング調査の結果を評価・分析し、その結果に応じて、第 2 期計画としての森林生態系保全再生手法（実証事業等）を設定する。

### 3. 森林生態系保全再生計画について（参考）

#### 【目 標】

これまで大台ヶ原を特徴づけてきた樹種の後継樹が、天然更新により健全に生育できる森林の再生を長期的な目標とし、当面は実証実験を実施し、実生の生育環境を明らかにする。

#### 【実証実験・モニタリング調査】

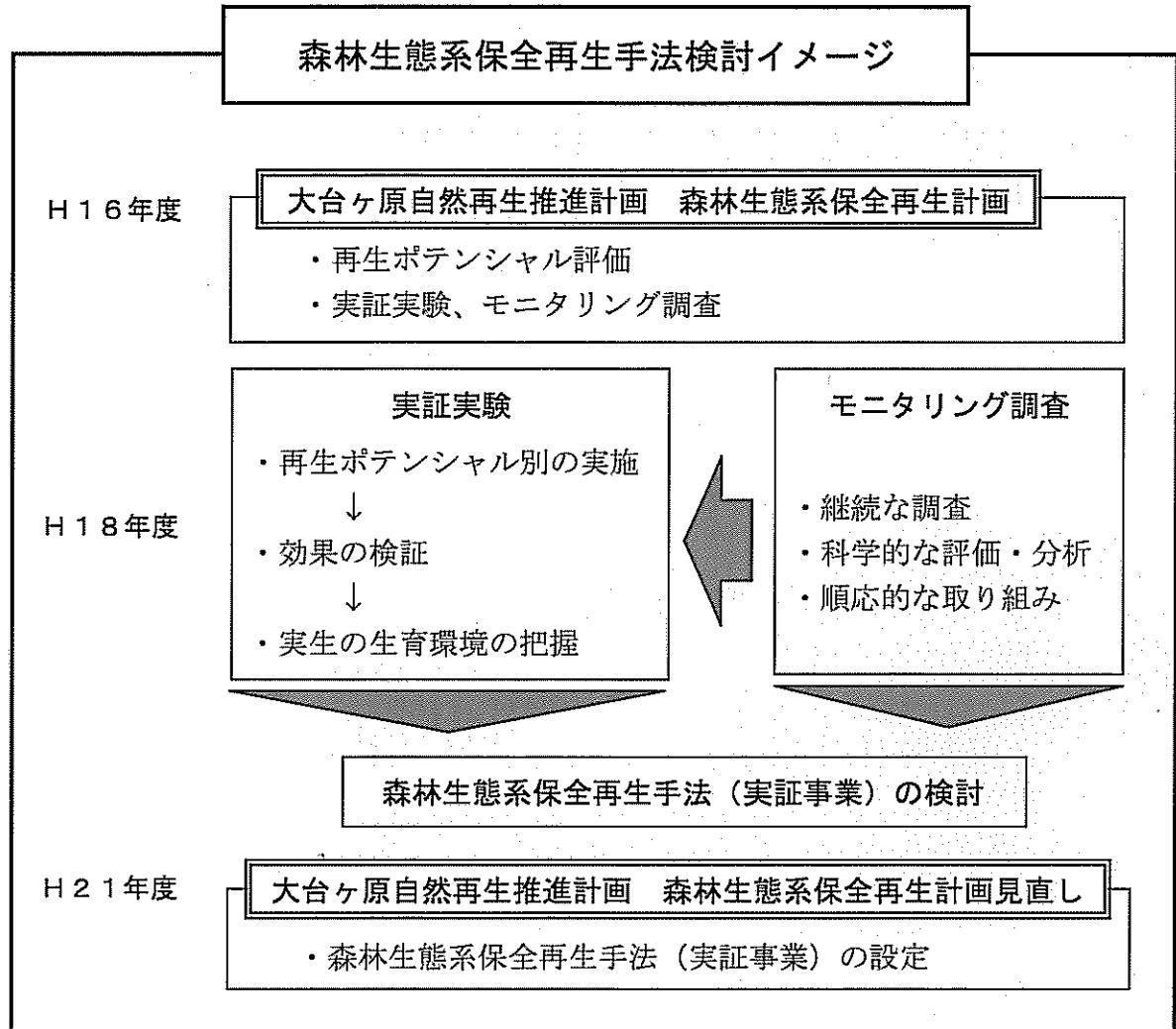
将来本格的に森林生態系の保全再生に取り組む際に、どのような手法が適切かを見極めるため、実証的な実験を行う。

再生の方向性・方法が適当であるかを検証するため、モニタリング調査を行い、そのデータを科学的に評価・分析し、その結果に応じて必要な修正を随時行うなど順応的に進める。

#### 【計画期間】

当面の計画期間を 5 年間（H16～20 年度）とし、平成 21 年度には、本計画期間における実施状況を検証し、6 年目以降の計画・事業内容を検討する。

#### 4. 森林生態系保全再生手法の検討について



#### 5. 平成18年度の検討経緯について (WG)

- 第2回 (7月21日) : 検討方針、体制等
- 第3回 (8月28日) : 再生ポテンシャル評価、実証実験の効果の検証等
- 第4回 (11月18日) : 動物調査のとりまとめ手法等
- 第5回 (19年1月予定) : 実証実験の効果の検証等

※それぞれのWGにおける検討内容については、参考資料（議事概要）参照。